

平成 30 年度(平成 29 年度実績事業)

下田市教育委員会自己点検・評価報告書

平成 30 年 11 月

下田市教育委員会

目 次

はじめに	1
教育委員会点検・評価の概要	
1 点検・評価の趣旨	2
2 教育委員会会議の開催状況	3
3 教育委員会会議での審議状況	3～5
4 教育委員会会議以外の活動状況	5
5 施策ごとの取組状況	6～8
点検・評価シート	9～45
6 有識者委員会	46
7 有識者委員会の意見	46～47
8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱	48～49

はじめに

下田市教育委員会の自己点検・評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業について1年間の活動状況の課題や取組の方向性を、自ら点検及び評価を行い、有識者による外部の知見を入れることで、今後の効果的な教育行政の一層の推進を図るものです。

この結果を、第4次下田市総合計画に定められた基本目標に基づく今後の施策に十分に活かし、「人が輝くまちづくり」を担う就学前教育・学校教育及び生涯学習における教育学習環境を更に充実し、活力ある教育行政を推進することで下田市が目指すまちづくりの一役に努めてまいります。

また、平成27年度に策定した下田市教育大綱における本市教育の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり」』を推進してまいります。

下 田 市 教 育 委 員 会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

下田市教育委員会教育委員名簿

（平成29年度当初 在籍委員）

職 名	氏 名	任 期
委員(教育長職務代理者)	田 中 とし子	H29. 3. 15～H32. 3. 14
委 員	渡 邊 亮 治	H26. 12. 13～H30. 12. 12
委 員	西 堀 政 幸	H28. 12. 15～H32. 12. 14
委 員	天 野 美 香	H25. 12. 14～H29. 12. 13
教 育 長	佐々木 文 夫	H27. 7. 21～H30. 7. 20

※ 平成29年12月14日 天野美香委員再任

教育委員会点検・評価の概要

1 点検・評価の趣旨

(1) 点検・評価の目的

教育委員会は、地教行法第 26 条の規定に基づき、毎年事務の管理及び執行状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図り、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に報告するとともに、市民に公表しています。

この自己点検・評価は、教育委員会の責任体制の明確化と教育行政の説明責任を果たすことを目的としています。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価にあたっては、平成29年度に実施した事務事業について、下田市教育大綱で掲げる本市教育の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり』を念頭におきながら、6つの目標「自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。」「「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。」「家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。」「いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。」「歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。」「市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。」に分類して、点検・評価の対象としました。

(3) 点検・評価の方法

点検・評価については、施策、事業の執行状況を明らかにするとともに、課題等を分析検討した上で、今後の対応方向を記述しました。

事業は、点検・評価シートに基づき点検・評価を行い、教育委員の評価として

- | | |
|---|-----------------------|
| A | 「十分成果が上がって良好に行われている。」 |
| B | 「成果が上がって概ね良好に行われている。」 |
| C | 「成果が十分に上がっておらず改善が必要。」 |

のいずれかの評価とその評価に基づくコメントを記載しました。

また、点検・評価の客観性の確保のため、教育に関し学識経験を有する方等外部の意見をお聞きするため、外部評価委員会を開催しました。

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会では、毎月 20 日以降を目処に月 1 回の定例会を開催する計画を立て、必要に応じて臨時会を開催しています。

平成 29 年度は 12 回の会議を開催しました。

定例会	臨時会	合計
12回	0回	12回

3 教育委員会会議での審議状況

地教行法第 25 条及び下田市教育委員会会議規則(平成 27 年下田市教育委員会規則第 2 号)に基づき、平成 29 年度は 49 件の議案を審議しました。

区分	番号	議案名
4月定例会 4月27日(木)	報第1号	専決処分の承認を求めることについて (平成 28 年度下田市一般会計補正予算第 8 号：教育委員会について)
	報第2号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立図書館長の任命について)
	報第3号	専決処分の承認を求めることについて (下田市公民館長の任命について)
	報第4号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立青少年海の家所長の任命について)
	報第5号	専決処分の承認を求めることについて (下田市青少年補導センター所長の任命について)
	報第6号	専決処分の承認を求めることについて (下田市青少年補導センター補導員の委嘱について)
	報第7号	専決処分の承認を求めることについて (下田市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について)
	報第8号	専決処分の承認を求めることについて (下田市文化財保護審議会委員の任命について)
	報第9号	専決処分の承認を求めることについて (下田市奨学振興基金条例施行規則の一部を改正する規則の制定について)
	報第10号	専決処分の承認を求めることについて (下田市幼稚園及び保育所再編整備検討委員会設置規程の一部を改正する規程の制定について)
	議第17号	下田市立学校等再編整備審議会委員の委嘱について
	議第18号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
5月定例会 5月26日(金)	報第11号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立図書館協議会委員の任命について)
	報第12号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度下田市一般会計補正予算第 1 号：教育委員会について)
	議第19号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成 29 年度下田市一般会計補正予算第 2 号：教育委員会)

区 分	番 号	議 案 名
5月定例会 5月26日(金)	議第20号 議第21号	下田市公民館運営審議会委員の委嘱について 要保護及び準要保護児童生徒の認定について
6月定例会 6月27日(火)	議第23号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
7月定例会 7月27日(木)	議第24号 議第25号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について 小学校用「特別の教科道徳」の教科用図書採択について
8月定例会 8月29日(火)	報第13号 議第26号 議第27号	専決処分の承認を求めることについて (下田市立学校ICT教育環境整備検討委員会設置要綱の制定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市子どものための教育・保育に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例の制定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成29年度下田市一般会計補正予算第4号：教育委員会)
9月定例会 9月27日(水)		議案なし
10月定例会 10月27日(金)	報第14号	専決処分の承認を求めることについて (下田市学校給食管理システム導入企画提案審査委員会設置要綱の制定について)
11月定例会 11月29日(水)	報第15号 議第28号 議第29号 議第30号 議第31号 議第32号	専決処分の承認を求めることについて (平成29年度下田市一般会計補正予算第6号：教育委員会について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市民文化会館指定管理者の指定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市民スポーツセンター指定管理者の指定について) 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成29年度下田市一般会計補正予算第7号：教育委員会) 下田市学校給食費に関する規則の制定について 下田市立学校統合準備委員会規則の一部を改正する規則の制定について
12月定例会 12月25日(月)	議第33号	下田市立学校等再編整備審議会答申について
1月定例会 1月23日(火)	議第1号 議第2号 議第3号 議第4号 議第5号 議第6号 議第7号	下田市いじめ防止等のための基本的な方針について 市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (下田市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例の制定について) 下田市いじめ問題対策連絡協議会運営要綱の制定について 下田市いじめ問題対策専門委員会運営要綱の制定について 下田市立学校処務規程の一部を改正する規程の制定について 下田市立学校統合準備委員会への諮問について 下田市立学校統合準備委員会委員の委嘱について

区 分	番 号	議 案 名
1月定例会 1月23日(火)	議第8号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について
2月定例会 2月22日(木)	議第9号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成29年度下田市一般会計補正予算第9号：教育委員会)
	議第10号	市議会の議決を経るべき議案の原案の決定について (平成30年度下田市一般会計予算：教育委員会)
	議第11号	下田市学校給食運営協議会規則の制定について
	議第12号	静岡県費負担教職員人事の内申について
3月定例会 3月23日(金)	議第13号	下田市教育委員会事務局職員の人事異動について
	議第14号	社会教育指導員の任命について
	議第15号	下田市学校給食費に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	議第16号	下田市英語検定受検推進補助金交付要綱の一部を改正する要綱の制定 について
	議第17号	下田市学校教育の基本方針について
	議第18号	要保護及び準要保護児童生徒の認定について

①基本方針 2件 ②議案の原案の決定 12件 ③規則及び規程の改定又は改廃 15件 ④人事 11件
⑤準要保護児童生徒の認定 6件 ⑥その他 3件 合計 49件

4 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 第58回静岡県市町教育委員会研修会

開 催 日	場 所	出席者
11月8日(水)	沼津リバーサイドホテル	田中とし子委員、西堀政幸委員

※内容：静岡県教育委員会の施策について、八名信夫氏講演

(2) 教育委員会点検評価有識者委員会

開 催 日	場 所
10月27日(金)	下田市民文化会館

(3) 下田市総合教育会議

開 催 日	場 所
7月27日(木)	道の駅開国下田みなと
2月14日(水)	下田市役所 中会議室

5 施策ごとの取組状況

教育委員会では、それぞれの基本目標を実現させるための施策の項目に対応する事業について点検・評価シートを作成し内部で点検・評価を行い、その後外部評価をいただき、意見をまとめました。

目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	確かな学力を育成する授業の推進	市指定研究校への支援 市研修主任研の開催 校内研修への支援	9
	生徒指導が機能する授業の推進	市生徒指導研の開催 授業づくり支援 市初任研の開催	10
	特別支援教育の充実	児童・生徒適応指導事業 特別支援教育体制推進事業	11
「豊かな感性」を育む教育活動の推進	下田の歴史と文化、自然を学ぶ学習の推進	体験プログラム事業	12
	コミュニケーション能力の素地を養う英語教育の推進	英語力向上プロジェクト事業 中学校ALT(外国人講師等) 小学校外国語活動へ社会人活用 英語検定受検推進事業	13
	子ども一人ひとりの心に響く道徳教育の充実	道徳教育の充実	14
「豊かな感性」を育む教育活動の推進	感性を磨き、豊かな心を育てる読書活動の充実	学校司書の配置 新刊図書を購入	15
「開かれた学校づくり」の推進	内と外に開かれた信頼される学校づくりの推進	学校公開と学校評価による教育活動の改善 地域の人材活用	16
	関係機関との連携体制の構築と子どもを守る体制の強化	関係機関との連携 “チーム学校”の推進	17
		放課後児童クラブ	18
	幼保・小・中・高の連携の強化	幼保こども園との連携 小中連携	19
「安心・安全な環境づくり」の推進	自助、共助の力を育成する防災教育、安全教育の充実	地域と連携した防災教育	20
	人権意識を育む学校づくりの推進	不登校等対策連絡協議会 市初任研修 人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問 全国中学校人権作文コンテストへの参加	21

目標実現のための施策		事業等	Page
教育施設・環境整備の推進	児童生徒のよりよい学びに向けた学校再編整備	中学校再編整備事業	22
	安心・安全な給食を提供する学校給食センターの運営	学校給食管理運営事業	23
	I C Tを活用した授業実践を行う体制の整備	小学校教育振興事業 中学校教育振興事業 奨学振興事業	24
	既存学校施設整備	小学校及び中学校管理事業 単独学校施設災害復旧事業 下田市学校施設整備基金条例	25

目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
就学前教育の充実	幼保再編後の子育て支援の充実と地域との連携	公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業	26
		民間保育所事業 子育て支援事業	
	教職員の資質と能力の向上に向けた研修の充実	園内研修の実施 園外研修への派遣	28
施設・環境整備の推進	認定こども園を核とした施設・環境整備	公立保育所管理運営事業 幼稚園管理事業	29

目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。

目標実現のための施策		事業等	Page
青少年活動の充実	地域活動への参加や地域との交流を深める機会の充実	青少年海の家管理運営事業 青少年健全育成事業	30
	文化や芸術、スポーツなどの青少年活動との連携	青少年健全育成事業	31
	家庭、地域、学校との連携を図った非行防止に向けた運動の推進	青少年健全育成事業	32

目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。

目標実現のための施策		事業等	Page
生涯学習活動の推進	市民のニーズに合った 学習プログラムの提供	成人活動推進事業 公民館活動推進事業	33
	図書館ボランティアとの連携 による図書館サービスの充実	図書館管理運営事業	34
	社会教育団体などの 自主的学習活動の支援	社会教育団体などの 自主的な学習活動の支援	35
学習施設の再編、整備	新たな図書館の建設	図書館協議会等	36
	地域の実情に見合った 公民館の再編整備	公民館管理運営事業	37

目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。

目標実現のための施策		事業等	Page
文化施設の整備	市民文化会館などの施設の 改修	市民文化会館管理運営事業	38
文化・芸術活動の活性化	文化事業や講座の開催 自主的な文化活動への支援	芸術文化振興事業	39
文化財の保存、 継承と活用	国、県、市の指定文化財の 保存と活用	芸術文化振興事業	40
	民俗芸能などの地域文化の 継承		
	埋蔵文化財の保護・保全		
郷土資料の保存、 継承と活用	郷土資料の保存や研究と 市史編纂事業の実施 郷土の文化財などの 学習活動への支援	市史編さん事業	41

目標6 市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。

目標実現のための施策		事業等	Page
施設の有効活用	学校施設の一般開放	保健体育総務事務	42
	利用者のニーズに応える 施設整備	下田市民スポーツセンター 管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	43
スポーツの振興	市民が気軽に参加できる スポーツイベントの開催	社会体育活動推進事業	44
	NPO法人などと連携した 総合的なスポーツの振興	社会体育活動推進事業	45

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○確かな学力を育成する授業の推進	
事業等	市指定研究校への支援、市研修主任研の開催、校内研修への支援	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【市指定研究校への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年 11 月 15 日(水) 下田市教育研究会指定研究発表（朝日小）市内全教職員参加 <p>【市研修主任研の開催 年 3 回】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の市の重点と各校の校内研修について 魅力ある授業づくりについての協議 市指定研究発表のサポート（司会、記録等） <p>【校内研修への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導主事による各小中学校の訪問と校内研修についての指導・助言。
検 証	<p>下田市教育研究会指定研究発表では、朝日小学校が 3 年間にわたる研究実践の成果を発表した。朝日小学校は、「生き生きと学び、考え合う子の育成～比較し説明する力を育てる授業づくり～」を研究主題として、2020 年完全実施となる新学習指導要領と照らし合わせながら、目指す授業のあり方や授業構想について考え、毎日の授業づくりに生かせる取組を提案した。発表会には市内の教職員が一堂に集い、確かな学力を育むために研修を深めた。</p> <p>市研修主任研では、子どもが主体的に学ぶ授業や学びの実感を積み重ねる授業を目指して、各校の研修主任が協議し、計画策定した。子どもの問いや問題解決的な学習を大切にした授業づくり、子どもの事実をもとに全員参加で進める研修の推進など、各校の校内研修の充実が図られた。市内小中学校校内研修一覧を作成し、互いの子ども観や授業観、具体異的な授業改善の取組を共有するなど、市内教職員の資質能力の向上を目標に実践した。</p>
今後の課題 方 向 性	<p>新学習指導要領完全実施を見据えながら、子どもの主体的・対話的で深い学びが実現するよう、授業改善を進める。</p>
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	<p>各校において、熱心に授業改善の取り組みが進められている。今後も、児童生徒一人ひとりが学びを実感する授業づくりに取り組み、未来を切り拓く子どもを育成していきたい。</p>

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○生徒指導が機能する授業の推進	
事 業 等	市生徒指導研の開催、授業づくり支援、市初任研の開催	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【市生徒指導研修会の開催 年5回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の生徒指導担当者による情報交換 ・子ども一人ひとりを理解し、成長を支える生徒指導の推進 ・いじめ・不登校対策連絡協議会を兼ねた情報交換 <p>【授業づくり支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による授業参観及び子ども理解を主眼においた事後研修会 ・学級づくりや人間関係づくりを基盤とした授業についての指導・助言 <p>【市初任者研修会 年4回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級づくりを基盤とした授業についての指導・助言 ・先輩授業の参観をきっかけとした、学級集団づくりについての協議
検 証	<p>市生徒指導研修会では、問題行動や不登校、いじめ、気になる児童生徒について情報交換するとともに、「子ども一人ひとりを理解し、成長を支える」という視点で指導の方向性や具体的な関わりを共有した。また、不登校児等対策連絡協議会や南伊豆町との合同生徒指導研等を通して、子どもの実態を的確にとらえ、日々の授業づくりに反映した。</p> <p>各校への授業づくり支援では、指導主事が訪問を行う際、「生徒指導が機能する授業」「一人ひとりを大切に授業」を念頭に助言を行い、子ども理解を中心に据えた授業づくりに取り組んだ。</p> <p>市初任者研修会では、日頃の授業づくりや生徒指導上の諸問題について悩みを語り合い、よりよい解決策を探るとともに、先輩の授業を参観する中で、生徒指導が機能する授業や互いに支え合う学習集団づくりについて学んだ。</p>
今後の課題 方 向 性	<p>確かな子ども理解のもと、互いに支え合う学級づくりを基盤として、日々の授業改善を進める。</p>
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	<p>現在、様々な家庭環境や生育歴、背景を抱えた子どもたちが小中学校に通っている。そうした子どもたち一人ひとりを的確にとらえ、あたたかい雰囲気の中で安心して学ぶことができる授業づくりや学級づくりに努めたい。</p>

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「学びの実感」を積み重ねる授業づくり	○特別支援教育の充実	
事 業 等	児童・生徒適応指導事業、特別支援教育体制推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【支援員等の効果的な配置：臨時雇賃金 16,557 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員 17 名 <p>【市巡回相談等の実施：謝礼 362 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育相談員（臨床心理士）による巡回相談（年 14 回実施） ・市就学相談委員会専門部会による幼保こども園の訪問。 <p>【幼児ことばの教室及び適応指導教室の運営：臨時雇賃金 3,027 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児ことばの教室指導員 1 名 ・適応指導教室指導員 3 名 <p>【特別支援教育就学奨励費：1,061 千円】</p>
検 証	<p>特別支援教育支援員17名の配置を行った。各校において特別な配慮を要する児童生徒が増加していることから、各校の実態に応じて個に応じた効果的な支援を進めることができた。特別支援教育の充実を図ることで、発達に課題をもつ児童生徒への対応や不登校の未然防止等、子どもの思いや保護者の願いに寄り添った教育活動に取り組んだ。</p> <p>市単独の予算措置により、特別支援教育相談員（臨床心理士）を中心とした巡回相談を年14回実施し、発達に課題をもつ幼児・児童・生徒への支援に取り組んだ。また、就学に向けて、市就学支援委員会専門部会による幼保こども園への訪問を実施し、新学齢児の実態把握と適切な支援を行った。</p> <p>幼児ことばの教室では、幼保こども園や市民保健課、福祉事務所等と連携しながら該当保護者に助言を行い、就学前に適切な支援がなされるよう努めた。また、適応指導教室指導員 3 名の配置等を行い、学校生活に適応できず不登校傾向にある児童生徒に対して、実態に応じた指導に取り組んだ。</p> <p>なお、平成29年4月に稲生沢小学校に通級指導教室（自 A L）が新設され、個に応じた支援の充実を図った。稲生沢小通級指導教室の新設により、下田地区が知的の特別支援の拠点、稲生沢地区が自・情の特別支援の拠点となり、市として特別支援教育体制を整えた。</p>
今後の課題 方 向 性	各校の実態に応じた支援員の配置をさらに進め、きめ細かな支援に取り組むとともに、早期からの特別支援教育体制を確立する。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	特別支援教育は、今後もさらに需要が高まり、対応が必要になる。市費による支援員等を適切に配置するとともに、効果的な支援の実現や特別支援の確立を進めたい。

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○下田の歴史と文化、自然を学ぶ 学習の推進	
事 業 等	体験プログラム事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【体験プログラム事業：2,200 千円】		
	稲梓小	バンブリングアート、ウナギ漁、鮎友釣り、漁船体験等	
	稲生沢小	椎茸菌打ち、ツリークライミング、森林体験	
	白浜小	サーフィン、魚釣り	
	浜崎小	干物作り、シーカヤック、シュノーケリング、陶芸体験等	
	下田小	水族館・寝姿山見学、和菓子作り、ツリークライミング等	
	大賀茂小	稲作体験、みかん狩り、ジオサイト教育、民泊(朝日小合同)等	
	朝日小	ウミガメ研究、歴史教育、民泊(大賀茂小合同)等	
	稲梓中	稲作体験、ライフセービング体験	
	稲生沢中	シーカヤック体験	
	下田東中	サーフィン、ボディボード、SUP、シーカヤック等	
下田中	シーカヤック、シュノーケリング、海アート、職場体験等		
検 証	地域の「人、もの、こと」との積極的なかかわり合いを大切にし、地域に根ざした多様な自然体験・社会体験活動に触れるため、体験プログラム事業を実施した。市内全ての小中学校で実施し、地域の体験を通じてたくさんの感動が生まれるとともに、児童生徒一人ひとりの豊かな感性を育むことにつながった。また中学校統合を見据えた学校間交流の場としても活用した。		
今 後 の 課 題 方 向 性	多様な地域活動に触れるための機会の増加と、伝える側の人材育成。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	下田市の恵まれた自然や歴史・文化を生かした体験学習を通じ、児童生徒の郷土を愛する心を育成するよう、より一層充実していきたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○コミュニケーション能力の素地を 養う英語教育の充実	
事 業 等	英語力向上プロジェクト事業、中学校 A L T (外国人講師等)・小学校外国語活動へ社会人活用、ニューポート市中学生派遣事業、英語検定受検推進事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【英語力向上プロジェクト事業：1,300 千円】</p> <p>○春の交流（平成 29 年 5 月 18 日(木)～20 日(土)＜下田小＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船事前交流会（学生による外国語活動等）、黒船交流会（水兵さんとの黒船交流会等）、黒船ボランティアガイド（水兵さんに下田の史跡を案内） <p>○秋の交流（平成 29 年 9 月 27 日(水)～29 日(金)＜大賀茂小、浜崎小、朝日小＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による英語活動 ・給食、昼休みにおける児童との交流 <p>○秋の交流報告会（平成 29 年 12 月 8 日＜玉川大学＞）</p> <p>【中学校 A L T ・小学校外国語活動へ社会人活用：3,462 千円】</p> <p>小中学校 11 校全てに A L T や社会人を派遣配置（A L T 2 名、社会人 3 名）。</p> <p>【ニューポート市中学生派遣事業：1,172 千円】</p> <p>中学生 4 名をニューポート市へ派遣（平成 29 年 7 月 11 日(火)～18 日(火)）。</p> <p>【英語検定受検推進事業：521 千円】</p> <p>中学生 207 名に対し、英語検定受検料に対する補助金を交付。</p>		
検 証	<p>英語力向上プロジェクト事業において、玉川大学と連携し、新たにコミュニケーション能力の素地を養う英語教育を推進した。春の交流では下田小、秋の交流では大賀茂小、朝日小、浜崎小を担当校として、生きた英語を学んだ。子どもたちの英語に対する興味関心を高めるとともに、資質向上の貴重な機会となった。</p> <p>中学校 A L T ・小学校外国語活動へ社会人活用については、専門性を活かした指導の充実を図るとともに、教員へのサポートを進め、小学校外国語活動や中学校英語科の授業の充実に取り組んだ。</p> <p>英語検定受検推進事業は、英語検定受験費用を軽減するとともに英語学習の機会を増やし、英語検定を通じて英語力を伸ばす一助となった。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>玉川大学との連携について、これまでの成果と課題をもとに、今後も子どもたちにとって意味のある活動になるよう取組を進めたい。また、中学生対象の英語検定受検補助金制度の拡充を行い、更なる英語教育の充実を図っていきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>英語教育の充実やグローバル人材育成の重要性はますます高くなっている。今後も具体的な取組をより一層充実させていきたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○子ども一人ひとりの心に響く 道徳教育の推進	
事 業 等	道徳教育の充実	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【道徳教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度より小学校において、先行実施される「特別の教科道徳」についての研修及び授業改善の推進。 ・教育活動全体を通じた豊かな心を育む道徳指導の推進。 		
検 証	<p>平成 30 年度より学習指導要領の一部改正により実施される「特別の教科道徳」について、具体的な指導方法や評価に関する情報を提供するとともに、各校で研修を深めた。また、指導訪問や校内研修で道徳の授業を取り上げ、具体的にどのような指導が有効か指導法を研究した。道徳教育は教育活動全体で行われる必要があることから、各校で全体計画や別葉を作成し、道徳教育の充実に取り組んだ。</p> <p>道徳指導については、児童生徒の実態をもとに、日々の学校生活で場面を捉えて指導したり、従来の道徳授業を工夫したりしながら、子どもたちの道徳性の涵養を目指して取り組んだ。</p> <p>「特別の教科道徳」の実施は平成 30 年度からであるが、“考え、議論する道徳”の授業の在り方を探り、準備を図った。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>「特別な教科道徳」について理解を深めるとともに、具体的な指導や評価のあり方を探り、実践を積み重ねる。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>子どもたちの道徳性を養うことは、変化が激しく価値観が多様化する現代社会を生きていく上で必要なことである。学習指導要領の一部改正を受け、適正な指導が行われるよう具体的な取組を進めたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「豊かな感性」を育む教育活動の推進	○感性を磨き、豊かな心を育てる 読書活動の充実	
事業等	学校司書の配置、新刊図書の購入	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>【学校司書の配置 小学校 7 校を巡回：臨時雇賃金 1,140 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校司書 1 名を配置。 ・市内全小学校（巡回）における学校司書による読書環境の充実。 <p>【新刊図書の購入：図書購入費 2,694 千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階に応じた優良図書の購入。 ・読書感想文推薦図書の購入。 		
検 証	<p>学校司書 1 名を任用し、小学校 7 校を巡回訪問することで、各校における読書環境の充実に取り組んだ。</p> <p>年度当初、各校から挙げられたアンケートをもとに学校司書に各校のニーズを伝え、学校司書が専門性を生かして指導にあたった。主な活動として、発達段階に応じた優良図書の紹介、掲示物の作成等図書室の環境整備、委員会や担任等と連携した読み聞かせの実施、新刊図書購入時のアドバイス、図書館の使い方についての指導等に取り組んだ。</p> <p>専門性が必要となる一人職であることや、研修の機会が少ない実情を踏まえ、読書指導にかかわる研修会に参加し、さらに専門性を高めるとともに、研修会で得られたことを学校司書の活動に反映した。</p> <p>読書環境の充実のためには、新刊図書の購入は必要不可欠であることから、読書感想文推薦図書を全校分購入したり、子どもたちにとって魅力的な新刊図書を購入したりする等、各校の学校図書館の蔵書充実に取り組んだ。</p>		
今後の課題 方向性	学校司書の任用を継続・拡大し、市内全小中学校における読書環境を充実させたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コメント	読書は子どもたちの心を耕し、豊かな感性を育むことにつながる。調べ学習等、教科等の学習を充実させるためにも効果的であることから、専門的な知識をもった学校司書の配置及び読書指導の充実を図っていきたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○内と外に開かれた信頼される学校づくりの推進	
事 業 等	学校公開と学校評価による教育活動の改善、地域の人材活用	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【学校公開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等による自校の教育活動についての発信 ・積極的な学校行事の公開や一日参観等の実施 <p>【学校評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者を対象とした学校生活アンケートの実施 ・学校生活アンケートの結果をもとにPDCAを機能させた教育活動の改善 ・学校自己評価及び学校評議員等による学校関係者評価の実施 <p>【地域の人材活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能教科等における地域の人材活用 ・総合的な学習における地域の専門家の活用
検 証	<p>学校行事や一日参観、総合的な学習の時間の発表等、積極的に学校を保護者や地域に公開した。保護者や地域の学校に対する関心は高く、多くの保護者や地域の方が学校の様子を参観する姿が見られた。また、各校の創意工夫により、学校だより等で子どもの様子や学校の現状、教育活動のねらい等を発信し、地域との連携に努めた。学校の教育活動に協力したいという地域の思いは各校で見られ、それぞれの学校で地域の教育力を生かした活動につながった。</p> <p>学校評価では、どの学校でも年2～3回児童・保護者を対象とした学校生活アンケートを実施し、その結果を各家庭や地域に還すとともに、全職員で確認し、具体的な解決策を探った。また、学校自己評価を進めるだけでなく、学校評議委員や地域の有識者による学校関係者評価を実施し、教育活動の改善に取り組んだ。</p> <p>各校の教育活動の特色を生かし、地域の専門家を招いての稲作活動や教科等相談員を活用した音楽、書写、総合的な学習を実施した。地域人材の活用を通して、開かれた学校づくりを実施した。</p>
今後の課題 方 向 性	地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育活動」を実現する体制づくりを進める。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	保護者も地域も自分たちの学校のために協力したいと考えている。教育活動の更なる充実を進めるためにも、社会に開かれた学校づくりを推進したい。

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○関係機関との連携体制の構築と子どもを守る体制の強化	
事 業 等	関係機関との連携、“チーム学校”の推進	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県賀茂児童相談所、市（福祉事務所、市民保健課等）との連携 ・ 市要対協及び母子連絡会での情報共有 ・ 下田警察署との連携 <p>【“チーム学校”の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ S C 及び S S W（県任用）の活用 <p>* S C : スクールカウンセラー、S S W : スクールソーシャルワーカー</p>		
検 証	<p>虐待等から子どもを守るため、賀茂児童相談所や福祉事務所と連携しながら、情報を共有し、児童生徒の生命や安全を守るよう努めた。</p> <p>近年、子どもの貧困や発達に課題をもつ児童生徒による問題行動や不登校、学校生活への不適應も問題になっていることから、市民保健課及び福祉事務所と情報共有につとめ、早期からの適切な就学支援を進めることで、一人ひとりの子どもの成長を支えてきた。育児支援や乳幼児の虐待や療育等の問題については主に母子連絡会において、学齢児の虐待や療育、不登校等については主に要対協において、市教委担当者や学校・園の代表が情報交換をし、子どもや家庭の実態把握と効果的な対応に取り組んだ。</p> <p>児童生徒の問題行動については、警察が関わる案件は少なかったものの、下田警察署と情報共有しながら対応した。</p> <p>県費による配置だが、現在市内全校に S C 及び S S W が配置（中学校区等）されている。市教委として S S W と定期的に連絡会をもったり、S C を交えてケース会議を実施したりするなど、学校のチーム力向上を図った。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>学校だけでは解決が難しい事案が増えていることから、外部機関と連携しながら対応を進めるとともに、S C や S S W 等を活用して“チーム学校”として子どもを守る体制を強化していく。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>学校教育を取り巻く諸問題を解決していくには、各関係機関との連携は必要不可欠である。開かれた学校づくりを進め、チームとして教育活動に取り組む体制づくりを推進してほしい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○関係機関との連携体制の構築と 子どもを守る体制の強化	
事 業 等	放課後児童クラブ	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【放課後児童対策事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田小学校放課後児童クラブ 月平均児童数 43.3 人、指導員 4 人の 1 日 3 人シフト ・稲生沢小学校放課後児童クラブ 月平均児童数 24.7 人、指導員 3 人の 1 日 2 人シフト <p>開設日：月曜日から土曜日 開設時間：（平 日） 事業終了後から午後 5 時 30 分まで （土曜日、長期休校日） 午前 8 時 30 分から午後 5 時 30 分まで</p>		
検 証	<p>保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校（1 年から 6 年）の児童を対象に遊び生活場を提供し、健全な育成を図るため、下田小学校と稲生沢小学校に「放課後児童クラブ」を開設している。</p> <p>また、平成 29 年度より放課後児童クラブの利用者負担額における県費助成の拡大を受け、ひとり親世帯に対して利用者負担額を半額とする軽減を行うと共に、多子世帯に対する市独自軽減措置として、第 2 子を半額、第 3 子以降の無料化を実施し保護者の経済的負担を減らすと共に、より利用しやすい放課後児童クラブを推進し、就学前から就学移行における子どもの成長に合わせたスムーズな支援を実施することで、子育て支援・児童の安全と健全な育成を推進した。</p>		
今後の課題 方 向 性	指導員の人材確保及び未設置校においても、ニーズ調査を実施すると共に、開設等について検討していく。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	「小 1 の壁」を打破するため、未実施校においても、ニーズ調査を実施し、開設等の検討されたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「開かれた学校づくり」の推進	○幼保・小・中・高の連携の強化	
事 業 等	幼保こども園との連携、小中連携	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【幼保こども園との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保こども園と小学校との児童間、職員間の交流 <p>【小中連携の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区単位での合同研修会の実施 ・小中連携の強化 		
検 証	<p>H29 よりモデル地区として賀茂地域に幼児教育アドバイザーが配置され、市内各園及び小学校を訪問し、幼児教育の充実と円滑な幼小の接続に向けて取組を進めてきた。なお、下田幼、認定こども園、下田保、下田小については、研究推進園・校として指定され、幼児教育体制構築のために研究に取り組んでいる。</p> <p>小中の連携については、各校の創意工夫により、中学校教員による出前授業や体験入学時の部活動体験、互いの研究授業の参観等を通して、中1ギャップが生じないように取り組んだ。</p> <p>各中学校区では、夏季休業を利用して小中合同研修会を開催し、学区の子どもたちの実態把握に努めるとともに、育てたい子ども像や身に付けさせたい力、大切にしたい家庭での生活習慣等を共有した。各中学校区で、よりよい子どもの成長を願い、ノーゲームデーや業間運動の実施など、その学校の実態に応じた具体的な取組を進めてきた。</p> <p>ただ、幼保こども園と小学校との連携については、かつてと異なり、私立保育園を含めた4園から7小学校へ入学することから交流が難しくなったこと、高校との連携については、一部高校生による理科の出前授業等事例も見られるものの市としての取組は見られないことなど、課題がある。また、今後市内4中学校の統合を考慮すると、これまで以上に小中連携や小中連携が求められることから、幼保こども園、小学校、中学校、高校の連携をより強化していく必要がある。</p>		
今後の課題 方 向 性	幼保こども園、小学校、中学校、高校の連携を意識し、中学校統合も見据えた、具体的な児童生徒の交流や職員の交流を推進していく。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	子どもの成長は幼保こども園から小学校、中学校、高校と切れ目なくつながっている。子どものよりよい成長を支えるためにも、更に幼保こ小中高の連携強化を推進していきたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「安心・安全な環境づくり」の推進	○自助、共助の力を育成する防災教育、 安全教育の充実	
事 業 等	地域と連携した防災教育	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【地域と連携した防災教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が連携した防災教育の実施 ・学校や地域の実情に応じた防災訓練等の見直しと効果的な実施 ・津波を想定した各校の避難経路の確認と整備 <p>下田小運動場避難路整備工事 679 千円</p>		
検 証	<p>東日本大震災を受け、昨年度に引き続き学校における防災教育を見直し、それぞれの学校・地域の実情に応じた防災教育に力を入れた。各校の創意工夫のもと、大学との連携や県賀茂振興局危機管理課と連携した取組を進める等、防災教育の充実に努めた。</p> <p>また、津波や東南海トラフ地震を想定し、各校において避難経路や学校防災マニュアルの見直しに取り組んだ。それに伴い地域と共に備蓄品確保や避難訓練のあり方を考えるなど、安全かつ安心できる学校づくり目指した。</p> <p>下田小学校については、避難経路として春日山の遊歩道を整備し、児童がより安全な避難ができるよう環境を整えた。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	津波や東南海トラフ地震等、大災害の発生に備え、安全かつ安心できる学校づくりを推進する。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	東日本大震災等、全国でおきている大災害や災害時の対応を教訓とし、児童生徒の安全を守る防災教育の充実、安全な学校施設の整備、緊急時の体制づくり等、安全かつ安心できる学校づくりを努めたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇「安心・安全な環境づくり」の推進	○人権意識を育む学校づくりの推進	
事 業 等	不登校児等対策連絡協議会、市初任者研修、人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問、全国中学生人権作文コンテストへの参加	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【不登校児等対策連絡協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内児童生徒の不登校やいじめの状況についての情報共有及び協議 <p>【市初任者研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の観点からの指導・助言 ・老人介護施設での社会体験 <p>【人権擁護委員による人権の花運動・学校訪問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権の花（ひまわり）の栽培及び学校現場における現状把握 <p>【全国中学生人権作文コンテストへの参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国中学生人権作文コンテストへの応募 		
検 証	<p>平成 29 年 11 月 28 日に市生徒指導研修会を兼ね、不登校児等対策連絡協議会を開催した。民生児童委員や各区長とともに、市内の小中学生の不登校やいじめの状況について情報共有を行い、様々な立場から市内の児童生徒一人ひとりの人権を守るよう取り組んだ。</p> <p>市初任者研修では、新規採用された教員に人権教育の観点から指導・助言をするとともに、老人介護施設での社会体験を実施し、人権感覚の育成に努めた。</p> <p>また、人権の花（ひまわり）の栽培や全国中学生人権作文コンテストへの応募を通じ、人権についての理解を深めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>教育活動全体を通じて児童生徒の人権感覚を育てるよう意図的に教育活動に取り組むとともに、教職員の人権感覚の向上に努める。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>やがて社会に出て、一人の社会人として生きていく子どもたちに、人権感覚を育ててほしい。そのためにも、教職員が人権感覚を身に付け、日々の教育活動において子どもたちと関わることを期待している。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○児童生徒のよりよい学びに向けた 学校再編整備	
事 業 等	中学校再編整備事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	【中学校再編に関する取り組み】		
	下田市総合教育会議	1 回開催	
	下田市立学校等再編整備審議会	4 回開催(中学校視察 1 回、答申 1 回)	
	市長と語る会	10 回開催	
	保護者説明会	11 回開催(小学校 7 学区、幼保こども園)	
	下田市立学校統合準備委員会	1 回開催	
	下田市立学校等再編整備審議会委員報酬 128 千円		
	下田市立学校統合準備委員会委員報酬 60 千円		
	新中学校整備基本計画等策定業務委託 4,401 千円		
	下田中学校耐力度調査業務委託 2,052 千円		
検 証	<p>『下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地等に関する報告書』で示した中学校再編の方向性をもとに、平成 29 年 4 月に教育委員会の附属機関である下田市立学校等再編整備審議会を設置・諮問し、平成 29 年 7 月に答申を受けた。その後、定例教育委員会、総合教育会議で協議調整した後、政策会議にて中学校再編に関する市の方針を決定した。市の方針については、2022 年 4 月に現在の下田中学校敷地を利用し 4 校を一校化する新たな中学校を設置すること、通学距離が概ね 4 km 以上の生徒に対する通学定期券の支給やスクールバス運行、概ね 2 km から 4 km までの生徒に対しては自転車及びヘルメット購入費補助を基本とした対策を講じること、既存学校施設を長寿命化する大規模改修を基本とした安心・安全で快適な学校施設を整備することの 3 点を決定した。</p> <p>市の方針に関して、市長と語る会や保護者説明会を開催し周知を図るとともに、中学校再編に関する更なる協議を進めるため、平成 30 年 2 月に教育委員会の附属機関である下田市立学校統合準備委員会を設置し、諮問を行った。</p>		
今後の課題 方 向 性	中学校再編に関する具体的な協議(新しい学校のあり方、学校名、校歌、校章等、通学方法等)を下田市立学校統合準備委員会を通じ進めていきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	過去の反省を活かし、中学校再編に関する説明等を十分に行った上で、様々な意見を広く聞き、一歩ずつ着実に進めている。今後も保護者、学校、地域の声を大切にし、より良い中学校再編を推進していきたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○安心・安全な給食を提供する 学校給食センターの運営	
事 業 等	学校給食管理運営事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>学校給食センターでは市内小中学校 11 校と県立東部特別支援学校 1 校へ給食を提供し、調理配送業務は株式会社レクトンへの業務委託により運営している。</p> <p>【債務負担行為】</p> <p>平成 27 年度 0 千円 平成 28 年度 37,800 千円 平成 29 年度 58,536 千円 平成 30 年度 58,536 千円 総 額 154,872 千円 請 負 先 株式会社 レクトン</p> <p>【給食費公会計化について】</p> <p>昨年課題とした学校給食の公会計化について、給食会計の安全性・透明性・公平性の向上を図るとともに、教職員の多忙化解消を目指し、学校給食管理システムを導入し、平成 30 年度からの公会計化実施に向けた準備に取り組んだ。</p> <p>学校給食管理システム導入業務委託：6,117 千円 株式会社日立システムズ神奈川支社</p>		
検 証	給食センターにおいて、安心・安全な給食提供を実施し、給食会計の公会計化に向けて取り組んだ。		
今 後 の 課 題 方 向 性	給食会計の公会計化による適正な賦課徴収事務の執行により、給食会計の透明化を推進したい。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	<p>給食センターの運営は、委託先との連携が良好に行われていることから、大きな事故や問題は発生していない。安心安全な給食の提供の継続と、給食を通じた食育に尽力していただきたい。</p> <p>また給食会計の公会計が円滑に進むことで会計の透明化と学校の多忙化解消に期待したい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○ICTを活用した授業実践を行う体制の整備	
事 業 等	小学校教育振興事業、中学校教育振興事業、奨学振興事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【小学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書指導書（電子黒板用ソフト）2,243 千円 ・パソコンネットワーク保守委託 3,215 千円 <p>【中学校教育振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書指導書（電子黒板用ソフト等）940 千円 ・パソコンネットワーク保守委託 4,259 千円 ・パソコン教室用ソフト利用料 819 千円 <p>【奨学振興事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育講師研修業務委託 996 千円 		
検 証	<p>各小中学校に整備された電子黒板は、電子黒板用ソフトの充実を図った。併せてパソコン教室に係る保守委託及びソフト利用料についてもパソコン環境を維持するため、事業執行をした。</p> <p>また平成 30 年度に中学校パソコン教室のパソコン機器更新及び小中学校への校務支援ソフトを導入するため、学校 ICT 教育環境整備検討委員会を設置し、ICT 環境整備の検討を行った。加えて賀茂地域校務支援事務共同化協議会を組織し、賀茂郡下で統一した校務支援ソフトを導入するための協議を行った。</p> <p>新学習指導要領改定により小学校におけるプログラミング的思考学習が導入されること、また今後 IT 人材不足が危惧されるなかで、下田市における IT 人材を育成する地方創生の取り組みとして、学校法人角川ドワンゴ学園 N 高等学校通信教育課程を利用し、平成 30 年度から中学生希望者を対象としたプログラミング教室を実施するため、現地講師の育成等の準備に取り組んだ。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>ICT の活用は、子どもたちの確かな学力の育成や、授業改善にも役立っており、更なる効果的な活用を進めていきたい。また、平成 30 年度に中学校パソコン教室の機器更新を実施し機能向上させるとともに、プログラミング教室実施のための環境整備を図りたい。校務支援ソフトについては、賀茂郡下統一で導入するための事務を進め、教員の多忙化解消につなげていきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>学校現場におけるより充実した ICT 環境整備を推進していきたい。また平成 30 年度から実施されるプログラミング教室についての効果を期待したい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。		
	◇教育施設・環境整備の推進	○既存学校施設整備	
事 業 等	小学校管理事業・中学校管理事業・単独学校施設災害復旧事業・下田市学校施設整備基金条例	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【小学校管理事業・中学校管理事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲梓小学校通路改修工事 20,110 千円 ・小学校トイレ改修工事（稲生沢小・白浜小・浜崎小・大賀茂小）4,981 千円 (助成金 3,000 千円) ・下田小運動場避難路整備工事 679 千円 ・小学校屋内運動場改修工事（稲生沢小・白浜小）8,010 千円 (交付金 4,004 千円) ・小学校給湯設備設置工事（7 小学校）3,500 千円 ・中学校トイレ改修工事 4,000 千円 ・下田東中学校屋内運動場トイレ洋式化工事 1,852 千円（助成金 1,400 千円） <p>※トイレ洋式化率 28.8% (92 基/320 基) 参考)28 年度 22.6% (73 基/323 基)</p> <p>【単独学校施設災害復旧事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲生沢小学校石積み修繕 497 千円
検 証	<p>稲梓小学校の進入路に対し、児童や車両通行時の安全確保とともに、安全な避難路を確保するため、排水路の整備、立木の伐採、舗装等の改修工事を実施した。</p> <p>防災機能強化事業として、避難所となる屋内運動場の安全を確保するため、稲生沢小及び白浜小の屋内運動場の窓ガラスに飛散防止フィルムを施工するガラス飛散防止工事を実施した。</p> <p>静岡県市町村振興協会の助成を受け、小学校トイレ及び下田東中屋内運動場トイレ洋式化工事を実施した。また老朽化した和式トイレを洋式トイレへと改修した。</p> <p>津波避難整備をしている春日山遊歩道へ繋がる下田小運動場避難路整備工事を実施した。</p>
今後の課題 方 向 性	学校施設の計画的な整備を継続して進め、安全・安心で良好な学校環境を確保していきたい。
教育委員評価	A 十分成果が上がって良好に行われている
	B 成果が上がって概ね良好に行われている
	C 成果が十分に上がっておらず改善が必要
評価に対する コ メ ン ト	かねてから懸念されていた老朽化対策の一助となる基金を効果的に活用していくとともに、学校施設の計画的な整備を推進していきたい。

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施策体系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○幼保再編後の子育て支援の充実と地域との連携	
事業等	公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業、 民間保育所事業	担当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	【公立保育所・認定こども園・幼稚園の管理運営事業】 (入所児童数) 0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 計 下田保育所 2人 11人 17人 24人 25人 22人 101人 認定こども園 1人 10人 16人 60人 51人 58人 196人 下田幼稚園 - - - 7人 11人 13人 31人 利用者負担金 38,517千円 (収入未済額 1,000千円、不能欠損額 260千円)							
	【民間保育所事業】 多様な保育推進事業補助金 10,488千円 (特財 3,613千円) 待機児童解消特別対策事業費補助金 1,560千円 (特財 780千円) 民間保育所給食費補助金 663千円 民間保育所建設費償還事業補助金 2,100千円 保育所運営費 163,820千円 (特財 54,478千円) 利用者負担金 31,167千円 (収入未済額 2,021千円、不納欠損額 0千円)							
検証	保育所 (公立 1 園、民間 2 園)、認定こども園 (公立 1 園)、幼稚園 (公立 1 園) の体制で就学前児童の教育・保育を実施した。また、一時的な保育ニーズに対応するため、下田保育所において、緊急・リフレッシュ保育事業を実施した (利用者 29 人)。民間保育所に対し運営費の支出の他、乳幼児・障害児保育、途中入所サポート、給食主食費等に対する補助金の交付を行い、適正な運営体制の確保に努めた。利用者負担額 (保育料) においては、国の制度改正に伴い年収約 360 万円未満相当の世帯への軽減拡大を実施したほか、市独自軽減措置として、所得制限等は設けず、3 人以上の多子世帯に対し第 2 子半額、第 3 子以降の無料化を実施し、保護者の経済的負担の軽減を図り子育て支援の充実を図った。							
今後の課題 方向性	家族形態やライフスタイルの多様化に伴う教育・保育ニーズに応えるサービスの提供に努める。民間保育施設に対し、適切な運営体制の確保に向けた支援、指導を継続して行っていく。							
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている						
	B	成果が上がって概ね良好に行われている						
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要						
評価に対する コメント	保護者や地域の方々と連携し、適切な運営を実施することができた。今後も引き続き、就学前教育の充実を図っていきたい。							

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○幼保再編後の子育て支援の充実と 地域との連携	
事 業 等	子育て支援事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【地域子育て支援センター運営事業】・職員 1 人・臨時職員 2 人体制、日数 237 日、利用者人員 4,346 人</p> <p>・交流の場の提供（開放）、子育て相談 26 件、支援センター通信の発行、講習等の実施 14 回、参加者 369 人（ベビーマッサージ、乳幼児救命講習、親子体操教室ほか）、地域子育て支援活動 48 回、参加者 1,235 人（おでかけ広場、発育測定他）</p> <p>【ファミリーサポートセンター事業】</p> <p>登録まかせて会員 53 人、お願い会員 55 人、利用実績 118 件、17 人</p> <p>【病児保育事業、実費徴収に伴う補足給付事業】</p> <p>年間利用人員 160 人、病児保育事業補助金 5,836 千円（特財 4,975 千円） 実費徴収に伴う補足給付（教材費・行事費等の実費徴収額の一部助成）18 千円</p> <p>【中学生赤ちゃんふれあい体験、子育て支援ガイドブック】</p> <p>中学生赤ちゃんふれあい体験（3校で実施）、子育て支援ガイドブック発行</p> <p>【子育てお試しクーポン事業】 新規事業として未就園児家庭 253 件を対象に、子育てサービスに利用できる子育てクーポンを配布。利用率 45.8%。</p>		
検 証	<p>子育て支援センターでは、親子の交流の場の提供、各種講座の開催、子育て相談等を実施し在宅で子育てする保護者の孤立化、育児不安の解消を図り、地域の子育て支援の核として事業を推進した。保護者の就労と育児の両立を支援するため、ファミリーサポートセンターの運営を行ったほか、新たな施策として病気のため集団保育が困難な児童を、一時的に預かる病児保育の実施、子育てサービスに利用できる子育てお試しクーポンの配布等を実施し、施策の充実を図った。また、民間団体や関係機関の協力を得て「下田子育て支援ネットワーク」を組織し、子育て支援ガイドブックの作成や、中学生赤ちゃんふれあい体験を実施することで、地域・関係団体との連携強化、活動に携わるボランティア、青少年リーダーの育成を推進した</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>子ども・子育て支援事業計画に基づき、安心して子育てをできるよう各種事業の整備、充実を図る。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>子育て世帯のニーズが多様化している中、子育て支援の更なる充実が望まれる。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇就学前教育の充実	○教職員の資質と能力の向上に向けた研修の充実	
事 業 等	園内研修の実施、園外研修への派遣	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【園内研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修（定例職員会議）、テーマ別研修（発達支援、防災・安全対策、食育） <p>【幼保連携研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別研修 <p>【園外研修への派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修（園長研修会、主任保育士研修会、教頭・主任研修会、初任者研修） ・課題に対応した研修（防災担当者研修会、発達障害療育支援専門講座、乳幼児研修会、食育研修会等） 		
検 証	<p>園内研修では、テーマに沿った話し合いを行うことで職員の共通理解や実践力の向上につながっている。また、職員全員がそろって実施することが難しいため、テーマ別にグループに分けて行うなど効率よく研修できるようにしている。</p> <p>幼保連携研修では、保育所、幼稚園、こども園の担当年齢別のグループにより、当該年齢児の課題に沿った事例検討等を行い保育のあり方の共通認識を図り、相互理解を深めることで職員の意識、能力の向上に努めた。</p> <p>園外研修については、勤務年数や配置に応じて適切な職員を派遣するとともに研修成果をより広げるため、園内報告を実施している。また、園外研修参加に係る代替教諭等の配置を行い研修に参加しやすい体制づくりに努め、子どもの個性や発達状況に応じた教育・保育の質的向上のため、職員の研修環境整備を推進した。</p>		
今後の課題 方 向 性	園内、園外において園や教諭・保育士等の課題に応じた研修が計画的に実施できるよう研修体制を整え、研修機会の確保に努めていきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	今後も効果的な研修を推進し、幼児教育・保育の質の向上に努めたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。		
	◇施設・環境整備の推進	○認定こども園を核とした 施設・環境整備	
事 業 等	公立保育所管理運営事業、幼稚園管理事業	担 当	学校教育課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>【公立保育所管理運営事業】</p> <p>下田保育所トップライト修繕 662 千円、下田保育所他修繕 712 千円 電動アシスト付避難兼用おでかけぐるま 6 台購入 3,784 千円、 すべり台購入 797 千円</p> <p>【幼稚園管理事業】</p> <p>下田幼稚園照明器具取替修繕 1,296 千円、エアコン修繕 1,056 千円 他修繕 24 千円</p>		
検 証	<p>公立保育所、幼稚園の施設や設備の老朽化が進行する中、下田保育所の屋上ト ップライト（ガラス窓）修繕、下田幼稚園の教室照明器具LED化 42 基、下田 幼稚園 3 歳児教室エアコン修繕などを実施し入所児童の保育環境の維持・管理 に努め、就学前教育における環境整備を推進した。</p> <p>下田保育所の防災対策等として、0～2 歳児の避難時に利用できる電動アシスト 付避難兼用おでかけぐるま 6 台を導入し、避難時における対応を強化し、安心安 全な環境づくりを推進した。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>安全・安心な教育・保育環境を確保するため、継続して各施設の維持管理や整 備に取り組んでいく。また、津波浸水域内にある施設の更なる安全対策を検討し、 推進していく必要がある。</p>		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	<p>計画的に修繕・整備等を実施し、良好な環境整備に努めたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○地域活動への参加や地域との交流を深める機会の充実	
事 業 等	青少年海の家管理運営事業、青少年健全育成事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○青少年海の家管理運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人）120 千円、光熱水費 74 千円、修繕料 203 千円（火災感知器修繕 82 千円、誘導灯取替修繕 121 千円）、消防設備点検委託 97 千円 <p>○青少年健全育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成啓発用品 25 千円、青少年健全育成看板作成 14 千円 		
検 証	<p>青少年海の家は、施設の耐震性を考慮し、平成 24 年 4 月から宿泊制限を実施している。本来の目的である市内の児童生徒の利用はほとんどなく、地元区誘致の教育旅行（15 校 2,096 人）の利用が主である。平成 29 年度の利用状況は、市内利用者 556 人、市外利用者 2,639 人、計 3,195 人で、使用料収入 17,600 円であった。耐震工事など大規模工事は実施していないが、必要な小修繕を行いながら、施設の維持をしている。平成 29 年度は、貴重な戦前の木造校舎の活用について、地元区との検討を開始した。</p> <p>青少年健全育成事業としては、下田市青少年健全育成連絡協議会を 2 回開催し、各地区育成会の事業報告・計画等を協議した。また、各キャンペーン（夏季非行・被害防止、冬季青少年健全育成、未成年者喫煙防止啓発）を行い、啓発グッズを配付し、市民意識の向上に努めた。各地区育成会に輪番で育成会標語看板の作成を依頼し、子どもたちの意識の向上に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>青少年海の家は、耐震性がなく老朽化が進み、宿泊制限を実施する建物であるため、地元区の意向を聞きながら、施設のあり方について継続して検討していく。</p> <p>青少年の健全育成については、地域社会と青少年の関わりが希薄になっている中で、地域や学校、警察等の関係機関の協力が必要不可欠であるため、関係機関で情報を共有に努めていきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>青少年海の家は、施設の老朽化が進む中、施設自体を今後どのように利用活用していくか、地元区の意見を聞きながら検討する必要あり。また、青少年健全育成事業については、声掛けや見守りを通じて地域と青少年の関わりを関係機関と連携し、子どもたちの健全育成に努められたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○文化や芸術、スポーツなどの青少年活動との連携	
事 業 等	青少年健全育成事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○講座開催状況		
	講 座 名		参加者
	親子ウォークラリー探検		12組 30人
	親子バックステージツアー		3組 7人
	親子漁船魚釣り教室		10組 26人
	・講師謝礼 78千円		
検 証	<p>身近にある恵まれた自然環境と地域の特性を活かした体験的な講座を開設し、親子のふれあいの機会を創出した。</p> <p>前回の反省として、民間で計画する他の事業とは違う新たな事業を検討したところ、平成 29 年度は親子漁船釣り教室に加え、新たに、親子ウォークラリー探検、親子バックステージツアーを開催した。親子漁船釣り教室では、須崎漁協青年部の協力で、釣りの経験がなくとも、親子で海の仕事、地域の資源、環境保全について学ぶ機会の創出となった。また、親子ウォークラリー探検では、稲取高校被服食物部とボランティア部の協力もあり、防災食体験など親子で防災の知識を学ぶ機会にもなった。親子バックステージツアーでは、下田市民文化会館の舞台裏見学などによって、親子でイベントの運営に興味を持ってもらうと同時に、子どもたちの職業体験にも繋がる事業になった。</p>		
今後の課題 方 向 性	事業に参加することにより、子どもたちが多くの人とのかかわりを持ち、様々な体験ができるような事業の実施に努めていきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	ひきつづき、家庭、地域、学校と関係機関が連携し、下田の歴史や風土を生かした親子で楽しめる事業実施を検討されたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。		
	◇青少年活動の充実	○家庭、地域、学校との連携を図った非行防止に向けた運動の推進	
事 業 等	青少年健全育成事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○補導の実施や育成会との連携を行い、青少年の健全な成長に関する取り組み ・青少年補導員報酬 246 千円		
検 証	<p>青少年補導センターで、各地区の祭典等を中心に、補導員による市内各地区の巡視を実施した。</p> <p>また、青少年の非行被害防止事業として、県内一斉街頭補導指導、店舗の立入調査及び街頭キャンペーンを実施し、青少年の健全育成のための協力を広く呼びかけた。キャンペーンには、下田警察署、女性の会、保護司会、更正保護女性会からも参加があり、関係機関と連携、情報交換しながら、非行防止を呼びかけることができた。</p> <p>補導員と育成会の合同研修を開催し、静岡県人づくり推進員を講師に、補導員 25 名、育成会 24 名計 49 名の参加があった。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	スマートフォンや携帯電話の使用や所持が低年齢化している中、青少年を犯罪被害から守り、非行に繋がらないよう、携帯・スマートフォンの使い方に関するルールの普及が必要である。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	青少年の健全育成を推進するため、関係機関や地域と連携し、青少年の非行防止や青少年を犯罪被害から守るための活動を継続するとともに、スマートフォンや携帯電話関連の犯罪や非行防止についても取り組まれない。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○市民のニーズに合った学習プログラムの提供	
事 業 等	成人活動推進事業、公民館活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○各種学級の開設								
	名 称	対 象	延人員	内 容					
	寿 大 学	高齢者	580	教養・健康・安全・歴史講座					
	寿大学趣味クラブ	高齢者	336	カラオケ					
	家庭教育学級	P T A	1,878	12 学級、親の役割と青少年の育成等					
	水産・海洋学講座	成 人	87	県、大学の研究機関等による市民講座					
	公 民 館 講 座	市 民	1,457	各公民館にて、13 講座、120 回開催					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寿大学講座講師謝礼 7 千円 ・ 家庭教育学級委託 180 千円 ・ 水産・海洋学講座講師謝礼 21 千円 ・ 公民館講座講師謝礼 159 千円 								
	<p>高齢者を対象とした寿大学（11 回）及び寿大学趣味クラブを開設した。また、県、大学の研究機関等による市民講座として、水産・海洋学講座を 4 回実施した。また、公民館ごとに講座を企画し 13 講座 120 回開催。</p> <p>各種事業及び講座には、幅広い世代からの参加があり、多くの市民の生涯学習の場所となっており、市民の生涯学習活動の推進になっている。</p> <p>幼稚園、小中学校 P T A に家庭教育学級の実施を委託し、各種事業が学級ごとに実施され、家庭教育力の向上につながった。</p>								
	<p>今後の課題 方 向 性</p> <p>各種事業・講座とも新規受講者を増やすための P R や、新たな講座開設の検討も必要である。</p>								
	<p>教育委員評価</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>十分成果が上がって良好に行われている</td> </tr> <tr> <td style="border: 2px solid black;">B</td> <td>成果が上がって概ね良好に行われている</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>成果が十分に上がっておらず改善が必要</td> </tr> </table>				A	十分成果が上がって良好に行われている	B	成果が上がって概ね良好に行われている	C
A	十分成果が上がって良好に行われている								
B	成果が上がって概ね良好に行われている								
C	成果が十分に上がっておらず改善が必要								
<p>評価に対する コ メ ン ト</p> <p>参加した受講者の満足度は高く、継続して受講する人が多いが、今後は、新たな受講者の獲得の工夫や新たな講座等の開設などを検討し、生涯学習の場の充実を図られたい。</p>									

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○図書館ボランティアとの連携による 図書館サービスの充実	
事 業 等	図書館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○図書館ボランティアとの連携による取組</p> <p>おはなし会等 8 開催(おはなしボランティア 5 グループ参加 延べ 29 人)</p> <p>ファーストブック 6 回開催 (登録者 6 人 延べ 22 人)</p> <p>蔵書点検補助 2 回 (登録者 4 人 延べ 4 人)</p> <p>館内展示物作成等 4 回 (登録者 2 人 延べ 4 人)</p> <p>書架整理 13 回 (登録者 2 人 延べ 19 人)</p>		
検 証	<p>ボランティアグループによるおはなし会等については、図書館員と一緒に 行い雑務等も担うことで、多くのボランティアグループに参加していただく ことができた。その結果、前回はお話会 2 回、2 グループのボランティア、 お話会参加者 40 人であったが、今回は 8 回、5 グループのボランティア、 参加者 161 名となった。子供から大人まで、お話会の対象年齢の幅も 広がり図書館サービスの充実が図られた。</p> <p>職場体験については中学校 3 校 5 名、高校 3 校 6 名の受入を行ったが、 高校生等のボランティア受け入れについては、ボランティアの控室となる 視聴覚室の空調設備の不具合や職員の配置など、受け入れ環境の整備が 必要なことから行うことはできなかった。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	<p>1 階貸出カウンターや事務室には、個人情報のセキュリティの関係から 立ち入ることができないため、読書アドバイザーや読み聞かせボラン ティアグループと連携し、読み聞かせボランティア養成講座を開催する ことで、ボランティアのすそ野を広げる活動を行っていきたい。</p>		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	<p>限られた環境の中ではあるが、ボランティアと連携し、図書館サービスの 充実 に努められたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇生涯学習活動の推進	○社会教育団体などの自主的学習活動の支援	
事 業 等	社会教育団体などの自主的な学習活動の支援	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	公民館や小・中学校施設（体育館、グラウンド）における使用料の減免措置を実施し、社会教育団体などの自主的な学習活動、体育及びリクリエーションの振興への支援を行った。		
検 証	社会教育団体などの公民館や小・中学校施設（体育館、グラウンド）使用について、減免措置を実施したことにより、自主的な学習活動への支援やスポーツを通じて体力の維持向上、技術の向上、心身の成長などにつながった。		
今 後 の 課 題 方 向 性	社会教育団体等の申請件数が増えるよう、生涯学習活動の推進に取り組んでいきたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	今後も幅広く充実した生涯学習の活動推進に努められたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇学習施設の再編、整備	○新たな図書館の建設	
事業等	図書館協議会等	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>新庁舎建設や中学校再編の方向性が決まったことで、平成 32 年度に新図書館基本構想を策定し、平成 35 年度以降新図書館を建設するという方向性が示された。また、「下田市公共施設等総合管理計画」に基づき個別施設計画を平成 30 年度に策定することが決まったため、それに向けて他市町の新図書館基本構想の比較検討を行うなど、たたき台となる原案作りを行い、平成 30 年度に図書館協議会で新しい図書館のあり方について協議していただくための予算措置等の準備を行った。</p>		
検 証	<p>下田市の公共施設全体の観点から考える必要があるため、動きを見定めながらの検討であるため、遅々とした動きではあったが、図書館協議会で、新しい図書館のあり方を協議するための予算措置を講じることができたことは大きかった。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>平成 31 年度に庁舎内の検討委員会を開催し、場所や規模等の方向性を示したい。また、情報技術の急激な進展、少子高齢化など図書館をめぐる社会情勢の急激な変化により図書館のあり方も多様化しているため、図書館の役割や図書館の必要性について市民への理解を深めるため、講演会等の開催も行いたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>「下田市公共施設等総合管理計画」に基づき全庁的な検討をするとともに、計画との整合性を図りつつ、図書館の施設、サービス、運営の在り方について、市民への理解を図りつつ、図書館協議会等の場での協議を進められたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。		
	◇学習施設の再編、整備	○地域の実情に見合った公民館の再編整備	
事 業 等	公民館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○公民館利用状況						
	公民館名	平成 29 年度		平成 28 年度		平成 27 年度	
		件数	利用人数	件数	利用人数	件数	件数
	中央公民館	1,857	22,790	1,276	14,851	1,189	15,103
	本郷公民館	260	2,809	206	2,589	145	2,087
	中 公 民 館	287	5,009	239	4,493	229	4,483
	稲生沢公民館	500	6,161	456	4,786	423	6,169
	朝日公民館	284	5,161	222	3,466	236	3,055
白浜公民館	162	3,625	206	4,668	195	3,375	
合 計	3,350	45,555	2,605	34,853	2,417	34,272	
	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人） 1,699 千円 ・光熱水費 3,732 千円 ・修繕料 739 千円 ・特殊建築物定期調査業務委託 143 千円 ・借地料 89 千円 						
検 証	<p>修繕・工事については、財政状況の厳しい中、優先順位をつけて修繕及び工事を実施し施設の維持管理をしている。中央公民館の2階トイレの改修として、男女トイレ各1カ所の便器を和式から洋式への取替、1階事務室の空調機故障による取替、中公民館屋上の防水シートと下地の除去修繕、他11件を実施し、利用者の安全と利便性の向上に努めた。</p> <p>公民館統廃合については、地元区代表への説明を実施し、年度中に各地区での方針をまとめてもらうよう依頼した。各地区の方針は、朝日公民館と稲生沢公民館の2館については地元区では公民館を譲り受けないと決定し、中・白浜・本郷公民館については、年度内の方針決定ができず、次年度以降早急に方針を決定することとなった。公民館運営審議会を4回開催し、進捗状況を説明した。</p>						
今後の課題 方 向 性	公民館統廃合について、地元区との協議を進め、基本方針に沿って統廃合を進めていく。また、存続する中央公民館のあり方について検討していきたい。						
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている					
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている					
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要					
評価に対する コ メ ン ト	公民館の管理運営については、概ね良好に執行されている。統廃合については、すでに公民館を廃止した地区との平等性を保つよう、地元区との協議を進め、継続して統廃合を推進されたい。						

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化施設の整備	○市民文化会館などの施設の改修	
事 業 等	市民文化会館管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○市民文化会館の管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化会館指定管理料 71,441 千円 ・修繕料 6,492 千円 		
検 証	<p>平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 25 年度より 5 か年の期間で公益財団法人下田市振興公社を指定管理者に指定している。</p> <p>指定管理者により多彩な文化事業が実施されており、平成 29 年度は、クラシックコンサート、太鼓のつどい、下田吹奏楽祭等 21 事業が開催され、延べ 10,189 人の入場者があった。また、貸館事業の年間利用者は、102,917 人であった。指定管理者による自主事業、貸館事業ともに前年度を上回る利用者数であった。</p> <p>毎年約 10 万人の利用者があり、伊豆半島南部の文化拠点として定着しているが、建築から 29 年が経過し、建物本体の一部をはじめすべての機器が耐用年数を大幅に過ぎた状態になっている。平成 29 年度は、修繕については、小ホール舞台設備コンセント交換修繕、地下室非常用発電機バッテリー取替修繕、他 2 件実施した。また、備品として故障していた移動用音響機材（スピーカーシステム）を購入し、利用者の安全と利便性の向上に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>建築から 29 年が経過し、設備全般にわたり老朽化が顕著になってきているため、円滑な運用、利用者の安全と利便性の向上のため、修繕計画に沿って計画的に改修を行いたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>修繕計画に沿って、計画的な改修ができるよう予算確保に努め、利用者の安全を確保し、魅力ある施設づくりを努められたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化・芸術活動の活性化	○文化事業や講座の開催 ○自主的な文化活動への支援	
事 業 等	芸術文化振興事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○文化事業や講座の開催 <第 62 回下田市芸術祭の開催>		
	部門	開催日	入場者数
	前期展示	11 月 3 日～5 日	1,046 人
	後期展示	11 月 10 日～12 日	1,055 人
	邦楽・邦舞部門	11 月 12 日	395 人
	洋楽・洋舞部門（第一部）	11 月 5 日	565 人
	洋楽・洋舞部門（第二部）	〃	237 人
	俳句大会	11 月 11 日	19 人
	将棋大会	11 月 19 日	43 人
	・下田市文化協会文化振興事業（芸術祭） 250 千円		
	○自主的な文化活動への支援 生涯学習課所管施設（公民館や文化会館等）における使用料の減免措置をし、自主的な文化活動への支援を実施。		
検 証	第 62 回下田市芸術祭を下田市文化協会、下田市振興公社、下田市教育委員会の 3 者で組織した執行会をもとに開催し、期間中概ね前年を上回る多くの入場者があった。 その他、年 1 回の会報の発行や、第 27 回黒船祭美術展覧会の開催など、市内芸術活動の発展向上、普及に寄与している。 各文化・芸術団体の生涯学習課所管施設使用について、減免措置を実施したことにより、自主的な文化活動への支援につながった。		
今後の課題 方 向 性	下田市文化協会と連携し、幅広い文化・芸術活動の推進を行い、新たな世代に活動が広がるよう啓発に努めたい。		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	文化協会と協力して、すでに定着した定例の事業に加え、文化協会への加盟の促進、会員の増加につながるよう新たな取組みを検討されたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇文化財の保存、継承と活用	○国、県、市の指定文化財の保存と活用 ○民俗芸能などの地域文化の継承 ○埋蔵文化財の保護・保全	
事 業 等	芸術文化振興事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○国、県、市の指定文化財の保存と活用</p> <p><文化財保護審議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護審議会委員報酬 16 千円 <p><文化財保護事業補助金></p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田市指定文化財保存費補助金（四天王像修復） 3,788 千円 <p><吉田松陰寓寄処管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時雇賃金（管理人） 1,422 千円 ・光熱水費等 34 千円 <p><歴史講座></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5回の連続講座「南豆の歴史を後世に」を実施（延べ192人の参加） <p>○民俗芸能などの地域文化の継承</p> <p><平成29年度伝統文化親子教室事業申請事務補助（文化庁補助金）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請団体：2件（下田書道会、日本将棋連盟 下田支部） <p>○埋蔵文化財の保護・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地の照会：34件 		
検 証	<p>文化財に関する報告事項や協議事項が生じた際は、適宜、文化財保護審議会を開催し委員からの助言を受け、文化財の保護保存に努めた。</p> <p>また、市指定重要文化財の「四天王像」修繕費として補助金を交付し保存に努めた。</p> <p>連続講座「南豆の歴史を後世に」を実施し、市内のみならず他市町からの参加者もあり、幅広い年代の参加者があった。下田に関する歴史を再認識し、地元研究者による専門性の高い講座内容を提供することで、地域文化の継承に努めた。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	指定文化財等の所在確認を行い、所有者への適切な管理についても指導していく。文化財等の保護保存に努め、活用についても検討する。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	指定文化財等の所在確認を、保護と管理、地域文化の継承に努められたい。		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。		
	◇郷土資料の保存、継承と活用	○郷土資料の保存や研究と市史編纂事業の実施 ○郷土の文化財などの学習活動への支援	
事 業 等	市史編さん事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○ 下田市史編さん事業</p> <p>『図説年表（仮）』、『資料編 4』近現代、『通史編（上）』考古・古代・中世・近世、『通史編（下）』近現代の刊行に向け、資料収集、資料調査、原稿作成等。</p> <p>・臨時雇賃金（市史編さん補助）1,099 千円、 報償費（市史編さん委員の調査活動等謝金） 2,448 千円</p>		
検 証	<p>刊行予定の書籍の資料収集、資料調査や執筆の進捗状況について、市史編さん委員と打合せを行いながら、刊行時期の調整を行った。</p> <p>学術的要素が強く、専門性の高い資料編のほか、市民向けの書籍を出版し、後に出版される通史編をより理解できるよう、図説入り年表の出版を予定に加えた。</p>		
今 後 の 課 題 方 向 性	早期の『通史編』の刊行を行いたい。		
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	<p>早期の通史編の刊行に努め、各分野で収集・解読した貴重な資料をわかりやすく市民に知ってもらう機会やまちづくりに活用できる方策についても検討されたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
体 系	◇施設の有効活用	○学校施設の一般開放	
事業等	保健体育総務事務	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事業概要 (具体的施策)	<p>○市民の体育及びレクリエーションの振興を図るため、下田市が設置する小学校及び中学校の施設（体育館、グラウンド）を開放し、各スポーツ団体に活動場所を提供。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費 623 千円 ・修繕料 624 千円 		
検 証	<p>平成 29 年度の利用状況は、体育館 2,286 件 31,390 人、グラウンド 301 件 6,075 人であった。利用団体は児童から老人クラブまで幅広く、多くの利用者の体力の維持向上、技術の向上、心身の成長などにつながった。</p> <p>修繕については、下田小学校グラウンド修繕等を実施し、利用者の安全に努めた。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>競技スポーツの振興、スポーツ関係団体の育成を図るため、施設の適正な維持管理を行っていききたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>今後も、多くの利用者が安心安全に施設利用できるよう、適切な管理運営に努められたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇施設の有効活用	○利用者のニーズに応える施設整備	
事 業 等	下田市民スポーツセンター管理運営事業 吉佐美運動公園管理運営事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	<p>○下田市民スポーツセンター管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下田市民スポーツセンター指定管理料 18,111 千円 ・下田市民スポーツセンター指定管理料（その 2） 3,209 千円 <p>○吉佐美運動公園管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉佐美運動公園管理業務委託 972 千円 ・光熱水費 161 千円 ・修繕（防風フェンス） 751 千円 ・備品購入費（ベンチ（8 台）） 299 千円 		
検 証	<p>下田市民スポーツセンターは、平成 18 年度から指定管理者制度を導入し、平成 25 年度より 5 か年の期間で公益財団法人下田市振興公社を指定管理者に指定している。</p> <p>体育館を中心とした市民の健康施設として、多機能に利用されており、平成 29 年度の利用状況は、2,383 件 66,983 人、利用料収入は、4,091 千円であり、前年度を上回る利用者数及び利用料収入であった。</p> <p>吉佐美運動公園の管理は、エルダーの会に委託し、平成 29 年度の施設の利用は、軟式野球、グラウンドゴルフを中心に 190 件 7,400 人であった。</p> <p>児童から高齢者まで広く使われる施設であり、市民の健康増進、競技技術の向上などに繋がっている。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>下田市民スポーツセンターについては、施設の老朽化により、修繕を必要とする箇所が次々控えている現状である。利用者の安全と利便性の向上のため、修繕計画に沿って計画的に改修を行いたい。</p> <p>吉佐美運動公園については、今後も適正な維持管理に努め、利用しやすい公園として整備していきたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>今後も、多くの市民が安心安全に施設利用できるよう、適切な管理運営と市民サービスの向上に努められたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○市民が気軽に参加できるスポーツ イベントの開催	
事 業 等	社会体育活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○各種イベント		
	グラウンドゴルフ大会	参加者 135 名	
	ふれあい広場（軽スポーツ）	台風により中止	
	第 46 回下田・河津間駅伝競走大会	参加チーム 80 チーム	
検 証	<p>下田市スポーツ推進委員会を中心に、市民が広くスポーツを楽しむ機会、健康づくりの場を創出している。</p> <p>また、各種団体と協力し、下田・河津間駅伝競走大会等のスポーツ事業を行った。</p>		
今後の課題 方 向 性	<p>スポーツの振興のため、多くの世代が参加できる新たなスポーツ教室などの検討を行いたい。</p>		
教育委員評価	A	十分成果が上がって良好に行われている	
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている	
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要	
評価に対する コ メ ン ト	<p>グラウンドゴルフのように、広く市民に愛され、浸透するような新たなスポーツ教室の開催に向け検討されたい。</p>		

平成 30 年度 下田市教育委員会の点検・評価シート（平成 29 年度事業）

1 施策体系・事業等

施 策 体 系	目標 6 市民がいつでも気軽にスポーツができるまちづくりを目指します。		
	◇スポーツの振興	○NPO法人などと連携した 総合的なスポーツの振興	
事 業 等	社会体育活動推進事業	担 当	生涯学習課

2 事業概要・評価等

事 業 概 要 (具体的施策)	○下田市スポーツ祭委託	168 千円
	○下田市体育協会補助金	155 千円
	<13 団体> 陸上競技協会、サッカー協会、テニス協会、バレーボール協会、野球連盟、 水泳協会、グラウンドゴルフ協会、ソフトテニス協会、ビーチバレー協会、 弓道連盟、ゴルフ連盟、合気会、バスケットボール協会	
	○静岡県市町対抗駅伝大会補助金	1,230 千円
検 証	競技スポーツの振興、関係団体の育成を図るため、下田市体育協会に委託し、 下田市スポーツ祭を開催した。 H29.12.2 開催の第 18 回静岡県市町対抗駅伝競走大会に参加するため、下田市 実行委員会を組織し、選手候補の指導から大会終了までの事業補助を行った。	
今 後 の 課 題 方 向 性	下田市体育協会の加盟団体は、競技人口の多いスポーツが主となっているた め、今後はマイナースポーツの振興についても積極的に支援していきたい。 市町対抗駅伝競走大会への選手候補者獲得ため、新たな方法を検討したい。	
教 育 委 員 評 価	A	十分成果が上がって良好に行われている
	<input checked="" type="checkbox"/> B	成果が上がって概ね良好に行われている
	C	成果が十分に上がっておらず改善が必要
評 価 に 対 す る コ メ ン ト	下田市体育協会との連携について、メジャースポーツだけでなくマイナースポ ーツも対象に加盟団体を増やし、様々な競技について活発に行われることが望ま れる。	

6 有識者委員会

下田市教育委員会の点検・評価に対する学識経験者等による知見の活用については、平成30年10月30日に下田市教育委員会の点検評価に関する有識者委員会を開催しました。

(敬称略)

役 職	氏 名	所 属
委 員 長	進 士 司	学校関係者 (元学校長)
副 委 員 長	高 寺 輝 行	学校関係者 (元学校長)
委 員	佐 野 晃 一	学識経験者 (公認会計士)
委 員	田 中 益 江	学識経験者 (下田市女性の会)

7 有識者委員会の意見

平成29年度事業の点検評価は、下田市教育大綱に位置付けられた6つの目標のうち、教育委員会の内部評価を経た37事業について実施しました。

教育委員会の内部評価のうち、37事業中34事業を「成果が上がって概ね良好に行われている」、3事業を「成果が十分に上がっておらず改善が必要」と評価されましたが、平成28年度は4事業あった「十分効果が上がって良好に行われている」と評価をいただいた事業は平成29年度には残念ながらありませんでした。

点検評価に際しては、下田市教育委員会から提出の自己点検・評価シート、主要な施策の成果等の資料を基に担当課長及び係長からの説明並びに教育委員からの補足説明を聴取し、質疑応答を行いました。

有識者委員会としては、各事業の点検・評価シートにおいて、各事業について高く評価する点や今後の改善が期待される点などを指摘しましたが、全体的には概ね良好な実施状況であるとして評価しました。

今後も、下田市教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長と教育委員会との連携の強化を図り、下田市教育大綱における本市の基本理念である『開国のまちから 夢をつなぐ「未来の人づくり」「自ら学ぶ人づくり」』の推進に努めていただきたい。

教育大綱の6つの目標ごとの意見要旨は、以下のとおりです。

【目標1 自分のまちや学校、自分自身に誇りのもてる「未来の人づくり」を推進します。】

- ・体験プログラム事業については、評価に対するコメントに「下田市の恵まれた自然や歴史・文化を生かした」と記載されているが、山、海、川など下田ならではの取組は良いことで、今後の取組の充実も期待したい。
- ・地域に根ざすとありますが、継続していくうちに交流を呼び、山の地域の子が海の事業に参加して、その逆も行われるという中で、お互いに交流し合ってプログラムに参加することで良い関係性が築けると思いますが、体験事業に関わる指導者も受講生から生まれてくる可能性もあるのではないかと期待したい。

【目標2 「生きる力」の基礎を育む就学前教育を推進します。】

- ・子育て支援事業について、下田市の次代を担う子ども達への支援事業は興味深い。赤ちゃん、保護者とのふれあいの中で、新たな展開も生じているという話も聞いていますので、今後も充実した形で継続していただきたい。
- ・職員全員がそろって研修を実施することは難しいため、代表の方が先進地への研修へ参加できるのであれば、地域に帰っての伝達研修を推進していただきたい。必ず中央に行けば先進の研修があるので、出張された方からの地域への伝達、還元をお願いしたい。重ねて年度計画を立てる中で、代表の方が県や先進地への出張を盛り込んでいくような努力もお願いしたい。

【目標3 家庭、地域、学校と関係機関が連携し、豊かな感性と社会性のある青少年を育成します。】

- ・青少年補導センターの活動について、立入りは形式的に行うのではなく、工夫改善しながら大事に取り組んでいただきたい。特殊詐欺についても、受け子とか紹介者など生々しいやり取りが収録された警視庁生活安全部という部署のビデオがありますが、ドラマ化したものもできてきているようですので高校生に見せる機会があればよいと思う。下田でも、このような話が都会の方の遠くの出来事だとは思わずに、育成面なども計画的に行い、立入り調査などもしっかり行ってほしい。
- ・講座開催について3点ほど事業が掲載されているが、「歴史や風土を生かした親子で楽しめる事業」について今後も充実を図るために、工夫、改善をお願いしたい。予算的なことがあって大変なことは承知しているが、継続しつつ新事業も考えてほしい。

【目標4 いつでも、だれでも生涯にわたり学習できるまちを目指します。】

- ・生涯学習活動の推進について、どの事業についても基本的に高齢化が進んでおり、先進地区の事例を参考にして、若年層への浸透を何らかの機会をもって図っていただきたい。
- ・公民館の利用状況について、利用率も多くなっている。公民館の今後の有り方を真剣に考えるときに来ていると思う。公民館を廃止した地区との平等性を保つことは非常に大切で、また中央公民館が基幹となった場合の諮問答申もあるので、その辺も生かしながら進めてほしい。

【目標5 歴史的・文化的資源を保存、継承し、文化芸術活動を推進します。】

- ・文化会館について、検証に記載される「伊豆半島南部の文化拠点として定着している」とあるようにそのとおりと感じる。自分の教え子にプロのピアニストの方がいるが、下田の文化会館は、非常に弾きやすく反響の良い施設であると話をしていた。大ホールで弾くピアノは非常に良いと話をしていたので誇らしく思う。

【目標6 市民がいつでも気軽にスポーツできるまちづくりを目指します。】

- ・市民の健康増進やスポーツの推進は力を入れていかなければならない分野であり、施設の老朽化や維持管理は、大変な苦勞があると思う。しかし市民が利用するに当たって、ルールが守られていない場合も見受けられ、もう少し利用者に対してルールを遵守してもらうよう説明する機会を持ち理解を深めてもらうことも必要ではないか。

8 下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会設置要綱

平成21年7月27日教育委員会告示第9号

(設置)

第1条 下田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検・評価を行うことで、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、事務・事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため、下田市教育委員会点検評価に関する有識者委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務・事業の点検評価に関すること。
- (2) その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に関する識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

- 2 委員長は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。
- 3 委員会の会議は、原則として公開とする。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、公示の日から施行する。
- 2 第3条第3項本文の規定にかかわらず、初回の委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

平成 30 年度(平成 29 年度実績事業)
下田市教育委員会自己点検・評価報告書

発行日 平成 30 年(2018 年) 11 月

発 行 下田市教育委員会

〒415-0024 静岡県下田市四丁目 6 番 16 号

TEL 0558-23-3929 FAX 0558-23-5176

E-Mail s-kyoui@city.shimoda.shizuoka.jp